

第6回新宿区文化芸術振興会議（第5期）議事要旨

- 開催日時 令和2年7月30日（木） 午後2時から午後4時まで
- 開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室
- 出席者
 - 委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 松井千輝 松島貴美子 的場美規子 大野順二
中島隆太 大和滋 舟橋香樹（欠席 岡室美奈子）
*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く。)
 - 事務局 菅野文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文化観光係長 加藤文化観光係主事

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 議事（要旨）

- (1) 前回会議の内容について
資料1に基づき、前回会議（令和2年3月27日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 「私たち区民」による文化芸術振興の重点項目に関する主な取り組みについて、資料2-1及び資料2-2に基づき、事務局が説明を行った。
- (3) 調査審議事項
新宿区文化芸術振興会議（第5期）活動報告書（案）について、詳細は事務局が説明を行った。
- (4) 意見交換
- (5) その他

【以降、意見交換】

- ・資料2-2を見ていて、令和2年度の主な取り組み予定がたくさん載っているが、フィールドミュージアムをはじめ様々なイベントが中止になっている。例えばフィールドミュージアムという、中止になって、その看板がとれても、もともと個々に予定されていた団体とか、コンサートや舞台などは開催される予定とっていて大丈夫か。
- ・（事務局）フィールドミュージアムに参加している団体のイベントが、かなり中止になっている。ただ、行う予定のところもある。しっかりとその団体さんのほうでPRをしている。ライブハウスや小劇場で映像を区に提供後、YouTube、それと新宿区で新たにつくるホームページで動画の配信サイトをつくる。今後、フィールドミュージアム関係の動画等も載せてPRしたい。
- ・「温故知しん！じゅく散歩」というサイトは、新宿観光振興協会の様々な観光コース、おすすめスポットも載せているサイトがあると思うが、それとはまた違う色をつけているのか。あとは連動しているのかというのをもう少し説明を。
- ・（事務局）新宿文化観光資源案内サイトは、文化財を中心に紹介するサイトとして作成し、今後

ちょっと拡充していきたいと考えている。観光振興協会のほうは、その会員のショップ等を中心として、食べ物、お土産、民間の施設等もご紹介しているというところで、すみ分けをしている。新宿観光協会のリンクを張り、それで施設、情報の連携等を行っている。

- ・コロナの状況で、既に中止・延期になったものもたくさんあり、これからも、中止とか縮小とか延期とか形を変えるやり方があると思う。例えば公演の場合は無観客で行うとか、何か公演を考えていたのがセミナーやアウトリーチでやるといったときに、例えばオンライン配信をするのか。状況によって中止になるのは非常に残念なことなので、どういうふうに代替されるのか。

- ・（事務局）区の事業でもいろいろ講座やイベントについては、今年度の上半期については中止というようなことになった。今後、民間が行っている無観客の配信についてはどのような方法で行って、この文化の火を消さないようにしていけるか。また、経費等もかかるので、そういったところも研究していきながら動画配信も取り入れたいと思う。こちらは今年度、来年にかけて研究をしていきたい。

- ・事務局が施設を中心にしている配信事業は、それ以外の文化センターとか、あるいは様々な屋内の施設で実施されるものが、何か配信したいと。また、自分たちでYouTube配信しているものをノミネートして、そこから配信できるような枠組みを今後整備されるということがあったら、広い目で見ていただくと、その配信の拠点サイトがおもしろくなっていくと思う。

- ・（事務局）動画配信について、民間の小劇場やライブハウスの、個々で行っている目的はホール等のPRと、やはり収入という投げ銭的な方式をとっているところがある。そちらは個々で行っていただいて、そういった音楽とか芸術、こちらのほうを発信する手助けに区のほうで動画配信サイトでも活用してできればなどは考えている。

- ・コロナがいつ終息するか見えない中で、区として区民に対して何ができるかというのはしっかり捉えて考えてほしい。

- ・（事務局）新宿区の事業については、文化芸術関係でも火を消してはいけなし、できれば事業を行っていききたい。まず実施するにはどのようにして感染対策をするか。やはり命が一番になるので、それのできるものによっては、配信ということも考えてはいかなければならないと思う。ただそれとともに実体験として体験をしてもらう。そういったことも配信とは別で、それをしなければならぬということもある。なかなか選択、対策、難しいところ。ただ区としても先ほども申したように、文化芸術の火を消してはいけなしとは考えて、どうしたらできるか。そういったことを考えながら、また各種事業を進めていきたい。

- ・コロナ禍でその文化芸術施設における情報発信に関するアンケート結果というのは、すごく重要になってくると思う。まず最初にお聞きしたいのが、このアンケート回答している年代というのはお幾つぐらいなのか。

- ・（事務局）各施設・団体でアンケートしているので、回答いただいた方々の年代というのは、はっきりしない。

- ・アンケート結果から見ると、年代が高いのかなという印象しかない。やってみないと望んでいるけ

れど、実際は個々に実践していないという印象をやっぱり受けてしまっているのが残念だと思う。例えば13ページのInstagramを使用しているのが16.9%で、使用してみたい手法で33.8%となっているが、今の時代どの方も普通にインスタを使っている。そこで動画を上げたりとか、ライブ配信も行っているのが多い中、なぜいまだに使用している団体が少ないのかなというはすごく疑問。インスタは無料アプリで、かつアップするのがすごく簡単なので、どんどん使用するべきというのが率直な意見である。新宿区もオフィシャルでやっていくべき。

- Tik Tokを使っている団体が0%で、使いたいと思わないのが40%という結果に非常にびっくりしている。最近ニュースでTik Tokが中国に個人情報が行くとされているので、今なら使いたくないという団体が多いのは理解できるが、このアンケート結果の実施時期って12月で、まだそこまでの嫌がる時期でもなかったのではないかな。なぜ使わないのかと疑問に思った。

- (事務局) 推測で、Tik Tokがこのころだんだん使用され始めてきて、やはり今まであったTwitterですとかFacebookを使っている方が多かった。Tik Tokにつきましては、まだその内容というのをよく把握していない方が多かったので使用していないと。

- ニュースの報道だと今規制しようとする流れがあるので、果たしてもともと使ってない方がでは使おうという気にはならないだろう。

- 年代が高めの方たちがアンケート結果多いのかなと思う。

- Tik Tokは、もともと18歳以下のユーザーをターゲットにしているアプリ。若い子を見たがっている意外に4、50代の男性がよく閲覧しているという話も聞くので、どこにターゲットを持っていくかは別として、団体としても使っていていいのかなと思う。

- Tik Tokがビルボードとコラボをしてオンラインライブを実施とか、あと高校生もよく使っているが、歌やダンスなんかをアップして、メジャーデビューにつながる。

- 韓国のYou Tuberで有名な方がハンズクラップ動画というのを上げていて、そこがバズって世界中に広がって、様々なアプローチをしていくというのにも広がっているから、このアプリに限らないのですけれども、TwitterとかFacebookも、どんどんできることというのを実践していく時期なのではないかな。

- 資料1を見ていて、コロナに関していろいろなご意見があって、例えばテレコンサートや、テレミュージアムもできるといいなというような話も載っていて、この時代に様々なツールで、文化芸術を守って継続させるべきだと思う。

- 小学校がずっとオンライン授業をZoomでやっているが、2年生や4年生は社会科見学をしなくてはいけない時期で、それがコロナの影響で社会科見学が実際にできないため、オンライン授業の中で先生が社会科見学と同様に、あちこち回って動画を撮ったものを配信して、その場でオンライン授業で双方やりとりをしながら、それについて学んでいくという授業をちょうど行ったところ。

- これって美術館でも実際できるのではないかなとちょっと思った。例えば学芸員の方がオンラインのミュージアム見学会を開いて、Zoomで講座を開いて、学芸員の方がいろいろと紹介して、子どもたちが学ぶ。

- そうすると文化の衰退にもつながらないので、SOMPO 美術館はできると思う、夏休みに企画していただいたらできるのではないかなというふうに勝手に思ったが、そういった企画もぜひ検討をお願いしたい。

- アンケートの結果は、私もびっくりしたのだけれど、新しい電子メディアは全く使っていないが、アンケートに答えるという答え方もいろいろあると思う。母数がどれぐらいかというのは、答えやす

いところと、答えにくいところがある。

- ・アンケートの中で、イベントや情報発信手法について、現在使っているというのは確かにWEBサイト、それから特にブログ、Twitterが非常に多く、それからチラシがかなり大きい。これむしろお年の方、実際に行くとか。

- ・効果がある手法で、チラシの効果というのは結構大きく出ている。これは機械に弱い、そういう人にも情報が行くようにしたい。

- ・新しい情報発信、様々なメディアが出てくるのは重要だと思う。若い人は自由に使いこなす。そうではない世代、あるいはそういうふうなものに弱い人々にも、うまく行くようなことを考えていく必要がある。そういう意味でアンケートは、非常に参考になった。

- ・区は、様々な条件の方々にそれぞれにあった情報を提供する。支援ができるような形を、知恵を絞ってという必要がある。

- ・アンケートはあくまで団体の観点でやっている。個人が様々な年齢構成。それこそSNSは団体によって使っている年代層の違いや、どういう目的で使うかというような、TwitterとFacebookは全然違うし、Instagramも違うし、使い方の媒体によっての特性があるので、これはそういうことも含めて、組織として使っているか。

- ・芸術団体の施設を見ている、Twitter使っているが、実際は組織的にきちっと位置づけられているかどうかとか、非常に微妙な問題があり、好きな個人がやっていることもある。

- ・そういう芸術団体、組織内での位置づけがまだはっきりしていないと。こういうSNSをどう使っていくのか。そういう問題が、かなり個人的なツールなので、非常に組織と個人の関係って難しい問題をはらんでいるので、なかなか進んでいないという問題がある。

- ・ウェブとチラシを完全に異なる性質を、チラシは情報として長く普及していくという需要だ。例えば今もう新聞というのは、効果が結構1カ月ぐらい続く、見た人はとっておく。テレビは1回見たらすぐ忘れてしまうけれど、数日しかたしか効果がない。

- ・いろいろな文化イベントについての効果、全然違うので、そこら辺はいろいろ注意してやっていかないといけない。SNSも多分1日ぐらいか数日で記憶から飛んでいってしまう。そういうような問題もあるので、そういうことを含めて考えていく。

- ・それでもまだ使われていないことは確かなので、この今回の調査で、提言が発信ツールの活用を受けて、例えば連携した広報活動と、報告書案3-1の2と3が特にあるように、ここで後段のまとめとして、連携した広報活動の促進という形をこういう提言して、何らかの取り組みをフィールドミュージアムでやったほうがいだろうというふうになった。

- ・SNSとか広報媒体、媒体ごとの特性をきちっと踏まえて、組織的に位置づけて活用していかないと、うまくいかないという問題があるので、そういう研究会をフィールドミュージアムでやるとかということもある。

- ・あと2と3の重複感が若干あるので、ここもちょっと何か整理したほうがいい。

- ・これからの時代に、SNSもいかしていくと。組織的な効果、そういうのを関係者で共有していくと。何らか新しい仕組みをつくっていくというのは、フィールドミュージアムの中で議論していったほうがいいのではないかなというふうに思うので、2と3をもうちょっと整理したほうがいいのかあるので、広報については。

- ・令和2年度の主な取り組みの中の、文化財の保護保存及び発信というのがあって、今説明があった新宿観光協会案内サイト、これは非常に重要だと思う。これを充実させていくことが、今年度の取り組みの1つになると。

- ・紙媒体などを、問題点として忘れないように、両方で進めてほしいと思う。
- ・特にこの文化観光資源案内サイトでは、観光協会と協力したり、あるいはすみ分けたりしていると、これも大事なことだと思うので、ぜひ進めていただきたい。

- ・アンケートのところではという記載がたくさんあるので、もし可能であれば、何ページの問い何という記載をすると、ご覧になる方が見やすいと思う。

- ・資料2-2で、「温故知しん！じゅく散歩」、ささっと「新宿散歩」というので検索したが引っかからなかったのも、もしかしたら新宿散歩ですぐ引っかかるように、何か細工ができるかどうかかわからないが、できるともっとアクセス数が増えるのではないのかなと思う。

- ・コロナの影響でおうちにずっといた方ばかりだと思う。子どもがVRの機械、新しいのを買った、それでYouTubeとかいろんなものを見ると、本当にその場にいるような感じになる。未来がうちの中にもやってきたと思って、手にとるような感じになってきたので、映像って本当にすごいんだなと思った。いろんなものが見られるので。

- ・息子がVR機械を注文して買ったものがあるが、実際にボタンをギュッと押すと押した感覚になったりとか、本当にすごいんだなと思ったので、出かけられない人もいろんな体験ができて、それはそれでいいのかなというふうに思った。

- ・何か情報を求めたいと思ったときに、やはりキャッチーなものというのが響くのだなということを感じた。同じ内容のことを言っている、アクセス数を比較すると、やはりキャッチーなものというのがアクセスされやすいというのはとても感じられた。例えば女性で言うと、ダイエットとかを気にしている人と、「激やせ」とか、そういうくくりがあったり、何かがあったりすると、すごく食いつきがいいのだなというのがあった。

- ・情報発信の際にタイトルというのは物すごく大切だなと思った。若い方たちだと長いものを見たくない、短いものを見たいということで、長い情報も確かに必要だが、取りかかりとしてはやはり短いキャッチーなもので、短いものってというのは、T i k T o kを薦めているわけではなくて、別のものでも構わないので、何かしらが必要なのかなと思った。

- ・他方でデジタルも大事だが、やはり紙媒体というのはとっておいて見られるということがあるので、すごく大事。

- ・デジタルと紙媒体というのは両方とも双方向で必要だなと思っていて、どうしても新しいもの、新しいものというものを求めたい気持ちもあるが、進めていただきたい。

- ・他方で、あらゆる人に文化というのは享受されなくてはいけないと思うので、年代それからいろんな障害を持っている方もいるので、そういう方にとっても、近い存在であってほしいなと思う。

- ・いろいろな提言が年を追うごとに内容が充実してきているなというふうに思う。

- ・この令和2年度の主な取り組みの中でも、やっぱりこれまでになかった項目が織り込まれてきていて、一歩ずつ着実に前進しているなというふうに思う。

- ・アンケート、これもすばらしくまとまっているが、アンケートをとった結果を現場にインタビューしに行くと、もう少し現場が見えてくると思う。全部にインタビューするのではなくて、アンケートでは誰が書いているかわからないので、そのアンケートでこちら側が着目した項目については、幾つかのところにインタビューに行くと、きっともっと違うことが見えてくるかもしれない。

- ・SNSをやりたいが、人材がいなかったりとか、いろんなことが見えてくるはず。そこをやっぱり、行くと、そういうことをしてみてもいいのかなというふうに思った。

- ・いずれにしてもここに書いてあること、とてもいいことがたくさん書いてあって、これまでずっといろいろな文化芸術が、点であったものが少しずつ線になりつつあって、それが面になると、もっと

勢いを増していくということ。

- 今の新宿西口でSHUKNOVAがオープンし、そしてこういう状況なのでイベントできないが、住友ビルのところには2,000人収容の屋内イベント広場、ずっと音楽を中心に素晴らしい施設ができ、SOMPO 美術館がオープンしたので、あそこは点から線に、都庁展望台も含めて点から線になって、これからいろんな活動ができるようになる、それがまた面になっていくといいなと。いずれにしても、ここに書いてある取り組みが点から線になりつつあって、それを面にしていけるような活動とか提言ができればいいなというふうに思う。

- 2点目はコロナ禍での取り組み例ということで、SOMPO 美術館を開いたときに始めたものとして、コロナ禍もひとつ意識しているが、YouTubeでSOMPO美術館って入れていただくと、今やっている展覧会のガイドムービー12分ものが出る。

- それから毎年のニュースレターで、学校授業の関係もあるけれど、毎月1品だけ「今月の一品」と。大原美術館が実際に素晴らしい取り組みをやっていて、それを4月からホームページに毎月貼るようにした。学芸員の説明をついている。

- 事業会社の取り組みで、コロナ禍で何かできることはないかというので、「ひまわりおうちアートプロジェクト」といって、塗り絵の原画を提供している。インスタになって、そこに描いた人たちが顔写真つきでアップされているから、家でもできる。

- 家でもお子さんたち、大人も塗り絵を楽しめるのだが、実際のひまわりのデザインの、線だけ引いてあって、そこに自分が好きなクレヨンとか何かで色を塗っていくということをコロナ禍で、取り組みを試行している。どういうふうになっていくか、まだこれからわからないが。

- 最後はもうキャッチーなことが大事。新しい美術館名になったので、そのブランドメッセージに、「この街にはひまわりがある」というのが必ずついて出てくる、SOMPO 美術館。

- 美術館の前には、陶板焼きの実物大のひまわりが、どんどんインスタに、お客さまがネットに配信されてくる。これは実は今積極的に言っていないが、触れるので、焼き物だから。凹凸までわかる。

- だから視聴覚の問題がある方も、今「どんどん触ってください」と言うと、消毒しなくてはいけないので。いろんな工夫を少しずつ、まだ僕らも緒に就いたばかりなので、これが正解だということを持っていない。

- 美術館のInstagram始めたけれど、これ継続するの、大変。やっぱり限られたメンバーの中で担当を1週間ずつかえていくとか何かしないと、とてもではないが、そんな1年も2年もやると、自分たちの力でやるが大変だというのはもうよくわかっている。これも、どういうふうになっていくのかと試行錯誤を繰り返しながらやっているところ。

- この会のメンバーでもあり、そして実戦部隊にも立つ人間であるから、自分も試行していることを、自分たちが試行していることも、また情報提供差し上げられたら、皆さんのお役に立てるかなというふうに思う。

- (事務局) 今いろいろ意見いただき、またアンケート調査を行う際には参考にさせていただきたい。

- アンケート調査のやり方でいろいろ出てくるわけで、その結果が非常に大事で難しい。それはこういうやり方だから出てきたということがわかるようにやっていただきたい。

- 会社のグラフィックデザインのギャラリーと美術館もやはりコロナの影響で3月から6月まで臨時休館した。最初はすぐに休館するのは嫌だった。文化は不要不急だって自ら言っているような気がしたので、できるだけ長く開催していたかったが、さすがに緊急事態が出たということで、やめざるを得ないということになった。

- ・次の展覧会の準備を進めた際、3Dの映像を撮影してバーチャルのギャラリーの形で配信を始めたり、あるいは無観客でトークイベントをして、それをYou Tubeで配信したりとか、そういったリモートで何かできることはないか。SOMPO 美術館ほど大規模ではないが、細々とやっていた。
- ・緊急事態が解除されてからは、とにかく来館者の安全とそれからスタッフの安全をどう確保するかということを考えるわけで、業界のガイドライン等を参考にしながら、1つは感染予防をどうするのかということ徹底すると。
- ・もう1つは感染拡大をどう抑止するのかということで、切り分けないといけない。2つの観点で対策十分にしてから再開しようということをやった。全ての施設がこういうことをみんなやっているとすると、すごく大変だったというのが実感だ。
- ・コロナに感染することは自分にとってリスクであるというふうに感じている人がいる限りは、この感染予防と感染拡大防止というのはやめることができないと思う。それがいつまでなのかというのは、今見えていなくて、2年後なのか3年後なのか、あるいはもっと先まで必要なのかというぐらいまで考えないといけないのではない。
- ・いずれにしても短期間でもとに戻るということはないのではないかとすることを想定しておく必要がある。近い将来その特效薬、ワクチンとかということがあれば、もとに戻るとはかもしれないが、もしそうならなかったときに、この文化芸術がどうなってしまうのかということをよく考えておかないといけない。
- ・ニューノーマルとかという言い方で、要するにもとに戻らないということの意味しているのだと思う。もしコロナが長期戦だということだとすると、美術館にとってどういう影響があるのかということの本質的に考えないといけない。
- ・3密対策に応じた施設の許容人数というのが決まってくるとなると、入場制限がどうしても必要になるので、これは収入が大きく減少する。その収入に応じたコストで運営していかないといけないということになると、例えば海外からの作品の貸し出しなんていうのは非常に難しいということも出てくる上、大規模な展覧会というのは非常に減少していく可能性がある。
- ・こういう状況が続いていくと、リアルに美術鑑賞するという機会が、我々一般の市民からすると、区民からすると減少してしまうということになりかねない。
- ・逆にそういう状況になってくると、経営側からすれば入場料上げるとか、そういうことが起こってくる可能性もある。ちょっと大げさに言うと、文化の民主化という流れに対する危機なのかということも考えないといけない。
- ・評議員をしている日本民藝館というプライベートの美術館では、年間の収入の6割が入場料と、それから売店の売り上げ。そうすると、入館者が半分になっただけでもう成り立たないぐらいの厳しい状況になってきている。
- ・こういう状況の中で文化的な体験の機会が失われてしまわないようにと、先ほど、事務局からも火を消さないということをおっしゃっていただいたので、すごく心強いが、公共性とか公益性という観点から、文化施設や文化団体、アーティストをどうやって保全していくのかということ、財政的な支援がどうしても必要なのではないかとことを思う。
- ・まずは倒れてしまわないようにするというのが一番最初に必要なのではないか。3年間我慢しろということになるのだったら、支援しないといけない。
- ・その上で3年経ってもまだニューノーマルの状況で文化をどうしていくのかというのは、個々に持っている文化資源、美術館であれば作品や、建物、学芸員であったりということだと思うが、それぞれの文化領域の中で皆さん資源を持っているので、その文化資源の価値をどうやって生かしていくのかということ、そこも確認していかないといけないのではないかとというふうに思う。
- ・美術館は本当に今までのような展覧会を次々にやるということで、本当にそれでは済まなくなっ

きたときに、何を、資源を使ってしていくのかということ、美術館は美術館で、美術館によってもそれぞれ違う。それ以外の劇場であったり、音楽、いろんなジャンルの中でそれぞれが、何ができるのかということを考えないといけないということになるので、まず守っていくということと同時に、革新に向けてどういうことをしていくのかを、プランしていただくようなサポートも必要なのではないかな。

- なかなか難しいお話だと思うが、文化芸術というのは、医療とかライフラインとか、あるいは教育と並んで社会が真っ先に守るべきものということ、そういう位置づけをしているのだということ、新宿区が表明することができないかな。

- そういうことをした上で、例えば3年間の期限を切って、保全のためにどういうサポートをするのかということ。

- もし必要なら革新計画を策定した文化施設に対してそういうサポートするとか、何かそういう行政的な政策の工夫は考えていただけだと思うが、基本的な構造として、今このままではいけないのだということ、これを改めて考え直すという危機感を持ったほうがいいのではないかな。

- リスク管理ということを見ると、そのリスクが起きる可能性がどのぐらいの確率なのかということ、それからリスクが起きたときに受けるダメージがどのぐらい大きいのかということも組み合わせで考えないといけない。

- その可能性が半々なのか、3分の1もしあるとしたら、文化がなくなる可能性があるという被害の大きさとか考えると、やっぱり対策講じないといけないのかなというのを強く感じた。

- 提言のところに文化芸術施設、アーティストの支援が必要ですよという、最後に書いていただいて、本当にありがとうございます。支援は必要なだろうと思う。

- オーケストラは意外といろんなところから給付金等々が入っていて、正直言うと、休んでいるほうが、4月、5月のほうが支出もない。収入がない割には支出もないから、ホール代もかからないし、ソリスト、指揮者代もかからないし、楽員の給料だけで、それは雇用調整金で賄えるので赤字がなかった。

- これからは定員50%しか入れられない。コロナ禍が盛り上がってくると、だんだんお客さんが本当に来ない。そこをどうするかということで大変で。

- 政府の二次補正でフリーランスの方に対しては20万円の給付金というものを考えてくれたし、あと川崎だと、マッチングギフトと言って、3,000万の補正をつけて、3,000万で3回演奏会やって、寄附を1,000万を目標で集めろと。そうしたら次年度のチケット1,000万を買って、市民に配るからというマッチングギフトを、もちろん1,000万集めた。

- 新潟では、50%しか入れられない。入場券の収入減に関しては、新潟市の補正でそれは認めるということを言った。それは施設を支援すること。

- 国とか地方に、あと銀行系がオーケストラに3億円をぽんと寄附してくれたとか、あと1億円寄附してもらった、財団もいろんな文化施設に寄附してくれたとか、こんなに文化に温かい国だなというのがすごく身にしみた。寄附がすごく集まってきている。

- これから動かすのが大変で、何が大変かというと、50%枠はいつ取っ払われるのかということ、あと外国人枠。入国制限がいつ解除されるのか。

- 在留資格はとっててもビザを出してくれないとなると、これから組み直さなくてはならないので、大変。

- 年末の第九をどうするかというの、各オーケストラが今必死になって考えているところで、この夏に結論出さないとどうしようもないというところで、皆さんにも感謝しながら生きていかなければいけないのだなというふうに思った。

・新宿区が音楽のまちだというのであれば、音楽が必要なのだ、文化が必要なのだということを、例えば区長に言っていただくと、とてもありがたい。行政のトップの方が音楽・文化は人間が生きていくためには必要なのだというふうに言っていただく発信力があると、勇気をいただける。

・美術館と、文化支援が大事だと、どう守っていくか。実演舞台芸術についてはアーティストそのものが人間で成り立っているのだから、そこをどう継続させていくか。

・国の補正予算でまだ十分とは言えないが、一部の手当がついてきたということの中で、緊急事態が解除されて、例えばオーケストラはまだ支援があるからいいが、寄席なんかは全然ないので、末広亭はすぐ開けて、半分の人数でやり始めた。

・やっぱり、まだなかなか入らない。半分でも入らないというところが、なかなか厳しい状況になっている。

・残念なことが起こって、再開せざるを得ないような部分と感染予防をどうするかという、国のG o T oキャンペーンをどう対応するか、いろんな問題のはざままで、いろんな議論が非常に難しい問題が進んでいるが、文化芸術関係団体の、ライブは多分やらないと弱体化する、能力が。

・狂言師が狂言の舞台にしばらく立ってなくて、この間久しぶりに立ったら発声が難しく、多分歌手も声を出さないとどんどん声帯が衰えていくし、バイオリン弾く人だって、どんどん能力が、弾かないと劣化していくし、こういう場もつくっていかないといけない。

・経済だけではなくて、能力、才能を維持していくための何らかの場もつくらないといけない。それをどう両立させていくかという実験が、今それこそ歌舞伎も8月1日から始まる。宝塚も7月29日から始まる。

・半分でやり始めて、国としては、本当は8月1日から100パーに戻したかったが、感染者が増えてきたので、確認して、9月まで延ばしていると。

・大きなはざままで今動いていて、本当どうなるか、先が見えなくて、いつ明らかになるか。経済の関係だと24年ぐらいまで駄目ではないかという方もいるが、コロナと共存してやらざるを得ない時期になってきていて、アーティストの方たちも舞台に立ってどういう表現をつくるか。

・区の文化センターも含めて、試行錯誤して、実際にしていかないといけないのかなというようなことを考えているし、ここの提言3-2でやっているような、こういう新宿区で今すごく大事なのだという、そういう宣言と同時に、フリーデーみたいな、フィールドミュージアム参加施設が何かそういう、やるための取り組みを国に対してやるような、感染症対策をやりつつ、そういうようなこの提言3-2であるような提言も、何らかの形で生かしていくような次の手を、ぜひ打っていただければなというようなのが、正直な感想。ぜひ次の期に、長期的な意味でのテーマで。

・NHKでやっているのを見て、劇団四季についてはやっぱりそこに観客があって成立すると言っていたことがすごく印象的で、私はもっぱら観客のほうなので、そこあっての文化だと思う。

・子ども劇場も3月から全部活動中止して、実は7月に公共の施設は借りられなかったので民間の施設を借りて、観客も半分で予定したが、結局集まったのは3分の1の状態で開催した。

・感染症を恐れて来ない人もいますので、文化庁のガイドラインをしっかりと明示して、なおかつ私たちのできる範囲でどこまでできるかということを示しながら実施して、先ほどから申し上げている、来られない人もいますし、私たちの収入も減っているところで、Peatixを使ってライブ配信を売るといった手法をとった。

・新しい顧客、今まで全然子ども劇場、子どもと文化なんていうことには全く関心もなかったような人たちにも、ああ、こういう団体があるんだという認知度が高まった。

・区として文化芸術を大事にするというのを指針として出してもらおうと、頑張る気力が出てくる人が

いっぱいいると思うので、あとはお金も限りがあるので、本当に広く浅くでもいろんな形で支援をしていかないといけない。

・コロナウイルスの共存し、いろんな施策をとりながら広く支援をして、何とかここをしのいでいく方策を練っていかないと、文化の火が消えてしまうのではないかと、すごく心配はしているので、そこら辺を今後考えていただきたい。

・この報告書をまとめる最終段階のときに専門部会が開催できず、書面でのやりとりで終わって、十分に議論を尽くしたという形でなかった。

・そのときに私自身も感じたことが3点あり、まず広報でWEBサイトというか、バーチャルを使うというようなことから最初は入っていったのだが、この広報媒体って物すごく進化する。激しく変わっていく。なので、どれがいいかというのは、どこにどういう情報をお届けしたいかによって、ツールはどんどん日に日に変わっていくのだろう。

・ロイヤル・シェイクスピアに、あそこもインスタとか非常に一生懸命やっているの、インタビューをしたときにはっきり言われていたのは、チケットを買う人たちはSNSでは来ない、チケットは売れないと。

・ロイヤル・シェイクスピアクラスのチケット代が払える方々にアウトリーチすることはできないのだけれど、ロイヤル・シェイクスピアがやっているようなシェイクスピア劇とは切り離されていると、思っているような、特に若い世代の人たちはチケットを買って今は来てくれないが、そういう人たちに自分たちみたいな存在があるということを知らしめるための非常に安価な割と簡単にできる。

・アップすればいい話なので、しかもアーティストがやるというのが一番いろんな権利関係も楽なので、そういうのを頼んで、楽屋でちょっとおしゃべりしているところとか、準備しているところをインスタに上げたりとかいうようなことをしょっちゅうやっている。それで多分認知度が上がったと。だからと言ってチケットが売れるわけではないと。

・そういう存在があるということをして先行投資として、それぞれの団体が、負担ができるほどの財力があればいいが、そうでない場合どうするのか。特にそういう広報だけではなくて、例えばそれはアウトリーチに近い形になっていく。

・アウトリーチで今まではリアルでやっていたものが、バーチャルの世界にアウトリーチが移ってくると、多分公的な色彩を非常に帯びてくるだろう。

・2点目のこのアウトリーチのやり方の中に、オンラインやバーチャルのものが組み込まれていくことになり、そのための経費負担、公費支援というのはより必要になってくると感じた。これが2点目。

・3点目はコロナのことで、報告書の4のところに入れて、最後に支援が必要だということを書いてほしいとお願いして入れた。

・4も含めて報告書なので、この委員会として必要だから何々を提言するとか、何々を期待する。引き続きいろいろな形での支援を考えていただきたい。この委員会は区長への提言ということが最終的な目的であろうと思う。

・報告書も、会長から区長に渡すので、ここの最後ところに何かもう一行入れられないかなというのは、非常に強く感じる。

・一方で新宿区が素早く劇場等の動画配信の助成を始めたので、そういう活動もされていると。引き続きこういったことを踏まえて、さらに必要に応じて柔軟に支援を考えていただきたいとか、何か一言入れられたらいいのではないかと。

・これについては報告書を書く段階では、入れられなかったが、皆様のご意見も聞いておきたい。

・併せてコロナに関して言うと、今まであった問題が顕在化したのが出ているように思う。

・美術館も劇場も、ある程度時間的、財政的余裕があって、それなりの関心のある方がリアルにいる。

来ないときに何が提供できるかというところ。それからいらっしゃらない方にどういう形で何が提供できるのかという、今まであることはわかっていたが、なかなかはっきりわからなかったところが見えてきたのかなという感じがした。

・オーケストラは明治以降、日本国家が物すごく力を入れて支援をし続けてきた分野で、ちょっと特殊事例だと思う。でもオーケストラだって、これが長引けばいずれ必ず傷んでくるので、そこは少し私たちの気持ちを最後のところにもう1行ぐらい込められたらいいなと思う。

・それは、確かに区長への提言だから。それで今の皆さんのご意見、我々の委員会としてこういった考えを報告する。

・今度こういうことを考えているという問題も出たし、さらにそれを超えて文化とどう生きたかという問題が、例えば美術館もどうしよう。展覧会、仮にコロナが終わっても、私ども美術館のあり方が変わってくると思う。

・美術館というのは、せいぜいでき上がって300年ぐらい。それ以前から様々な芸術活動があった。それをどういうふうにしたか。今300年間の美術館活動はそのままに行くわけではないと思う。コロナがなくなったってあり方は変わってくるだろうと。

・しかしそうやってもとに戻るわけにはもちろんいかないだろうし、社会の状態も。もとの形というものがありながら、同時にオーケストラの定期演奏というようなことをそれぞれやっている。歌舞伎は月ごとに演目をやっている。

・昔、江戸時代は、それ以前、祭事などのお祭り、祭礼、儀礼でお祈りするときに何かやるとか、それが一般の人々の鑑賞と結びついている。その辺もおもしろい。

・スポーツがお客なしでやるようになったり、高校野球でも何でもやる。あれもひとつ意味があって、つまり選手にとってももちろん意味がある。今までは甲子園の高校野球は、お客さんに対しても意味がある。

・例えば天皇賞の競馬だって、今お客なしでやるし、お客ということは、一種参加している。パフォーマンスももちろん参加から始まって、オーケストラも。それを果たしてどういう形で、またやり方が変わってくると思う。そうすると、コンサートホールも、もちろんまた変わってくるでしょう。

・一挙には変わらないが大きく変わってくるようになるので、美術館だけではなくてギャラリーだって変わって行って、コンサートホールも。コンサートホール出てきたのは、表に出てきたのは、やっぱり300年ぐらい。それ以前はあちこちで、野外でやったり、あるいは神殿でやったりというようなことがある。そういう形が大きくこれから動いてくると同時に、今、行政である区がそういうことに対して、皆さんに援助してやっていく、それはすぐにでも必要なこととして考えていただきたい。

・私は、芸術文化の振興会議の役割、芸術文化は人間の生き方にどういうふうに重要か。具体的にそれはどういう形で現在あらわれているのか。非常事態になれば、コロナだけではなくて、自然災害も含めて、それに対してどう対応するのかというようなことも、すぐに考えなくてはいけない。

・同時に長い目で人間にとって大事なもの、文化の火を消さないようにするにはどうすればいいのかということも考えながら、行政のほうはそれに応じた対応をしていく必要がある。特に新宿区に関して言えば、文化センターを通してとか、フィールドミュージアムを通してとかある。

・漱石山房記念館が、あること自体が非常に意味があると思う。しかし、展覧会をやらないと人は来ない。そうではない何かがあると思う。漱石山房記念館は、今、漱石が人気で、佐伯祐三アトリエ記念館、中村彝アトリエ記念館、特に毎月展覧会をしないけれども、あそこにあったということの意味がある。つまり歴史的な意味。

・お客さんが来てもらえるよう、つなげていくというのをまたいっぱい新宿区にはある。そういうイ

イベントでまず知らせることも必要だし、イベントである時期にわっと人が来ることも必要だし、そうではない、文化の息の長いものがあるということもまた知らせる。それに対する情報の提供という、非常に広い大きな問題があろうかと思う。

- ・今回の委員会、特にこの提言もまとめていただいて、できることと、それからすぐ全部できる。できないかもしれない。できることを頭に置いておくこと。

- ・第5期終わってやるのならば、次の第6期どういうふうに問題を考えていくかということは、今のような問題点、すぐにもやれること。それから長い目で見ること、できることと、できないけれど必要なことと分けながら、新しいことを考えていくということが必要。

- ・今回のそれぞれの立場の皆様、委員からご意見もあり、あるいはご提案もあり、情報もあり、大変私も勉強になった。そういうことも含めて区民の方、一般の方に対して、つなげていく役割で、それなりの話がまとまったというふうに思う。

3 事務連絡等

次回の会議の日程や会場については、別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長のあいさつをもって、午後12時に閉会した。